



Raising Global Citizens through Art Education

2023年活動報告

特定非営利活動法人 EduArt



Raising Global Citizens through Art Education

課題に向き合い、問いを立て、新しい切り口を模索し、自分の思考に形を与える。
EduArtは子どもたちが世界の一員として、地球、社会、そしてお互いを尊重できる
グローバルシティズンとなる未来を願い生まれたアート教育団体です。

未来を担う子どもたちに必要な学びは与えられているのか？

地球規模の危機、山積みの社会課題、目まぐるしいスピードで更新される情報に子どもたちは日々直面しています。そんな変化の時代を生きる子どもたちが必要とする学びとはなんでしょう？そして、そのような学びの機会は子どもたちに等しく与えられているのでしょうか？

Through art, it's possible.

未来を担う子どもたちに求められるスキルとは、問題に対して正解を求めるのではなく、一人一人が自ら問題定義をし、発想の中に解決策となる糸口を見出す力。そして、それを自分なりの手段で伝える力です。私たちは、常に社会の常識を問うと共に、様々なジャンルを横断し包摂できるアートこそ、このような学びにアプローチをすることが可能だと考えています。アートとは発想を表現に転換する活動です。課題に向き合い、問いを立てる。新しい切り口や、新しい捉え方を模索し、自分の思考に形を与える。一つの正解を誰かと競い合うのではなく、互いの価値観を認め合う。このような体験は、彼らを内から支える自信となり、未来を切り拓く力となります。

OUR VISION :

子ども達が世界の一員として、地球、社会、そして
お互いを尊重できるグローバルシティズンとなる未
来の実現

OUR MISSION :

1. 子どもたちが地球、社会と自分を見つめ、イノベーションで課題解決へと繋げる思考力をつける
2. 子どもたちが異なる価値観を認め合い、他者と自分を大切にし、表現することの喜びを生きる力にする
3. 子どもたちが、自然の理の中にあるアートを通して地球を大切にすることを育む

2022年4月に任意団体として発足後、2023年3月に特定非営利活動法人に認定

学校連携アート
事業



小学校総合授業連携
アートプログラム

- 小学校向け特別アート授業「SDGsquares」(通年)
- 「SDGsquares」作品展 玉川高島屋 (R5 3月)
- 平安小6年生、中山小1年生 SDGsの項目をテーマに制作 (R5 7月、9月)
- 神橋小6年、菅田の丘小総合アート講師 (R5 9~2月)
- ヨコハマトリエンナーレ連携、横浜インターナショナルスクール高1アートプログラム実施 (R5 7月)

保育園連携アート
事業



保育園アートプログラムの開発と講師派遣

- SDGsを軸とした年間のアートカリキュラムの開発
- ポピンズアクティブラーニングインターナショナルスクール・恵比寿にてSDGsのプログラムを指導、ポピンズアクティブラーニングスクール・広尾のアトリエリスタとしてアートプログラムを監修 (通年)
- 都内を中心にした15のポピンズナーサリースクールヘルアートエドゥケーター派遣 (通年)

ワークショップ
事業



アート講師
受託活動

- 文化庁、文化芸術による子供育成推進事業、浦舟特別支援学校にてアートプログラム実施 (R5 1月)
- 横浜市民ギャラリー主催、ハマキッズアートクラブ講師 (R5 6月)
- 小金井市立はげの森美術館「うるおうアジア」展特別ワークショップ講師 (R5 12月)

ワークショップ
事業：多文化共生



多文化ルーツキッズ
のためのアート活動

- インターナショナルギャラリー7artscafeにてマンスリーワークショップを実施 (通年)
- 鶴見国際交流ラウンジ主催、保育園にて異文化交流カポエイラxアートワークショップ講師 (R5 3月)
- アート制作をメンタリングした中学生と高校生の作品を7artscafeにて展示 (R5 5月)

ワークショップ
事業：LANDART



自然の中での
表現活動

- 大地の室礼ワークショップ、千葉県君津市 (R5 6月、7月)

学校連携アート
事業：Sex Ed



新規事業
R6スタート

- Dr June Low のオンラインの性教育レッスン受講 (R4)
- コラボレーションに向けて打ち合わせ開始 (R5 12月)

SDGsquares

Q. 子どもたちに必要な学びは与えられているのか？

A. アートを通して社会課題を自分事として捉えるきっかけをつくる。



SDGs × 学び × アート

「SDGsquares・エスディー・グーズスクエア」はSDGsの17の項目をテーマにスクエアのアートを制作するアートプロジェクト。グローバルな社会課題を自らの体験として捉えるきっかけになって欲しいという願いから生まれた小・中学生のための特別授業です。

特別アート授業



Day 1. レクチャー & グループワーク 総合2コマ

1日目の前半ではSDGsの項目や「いのち」を主題とした対話型のレクチャーを行います。問いかけや対話を通じて子どもたちは思考を深めていきます。

後半は班ごとに102枚のトピックカードをSDGsの17項目に分けるグループワーク。これはゲーム感覚で様々な社会課題に触れることができる活動です。



Day 2. 制作 図工2コマ

2日目は自分が決めた項目のテーマカラーの色画用紙を台紙に貼るところからスタート。廃材が並んだテーブルから自分のテーマに合う材料を選び、ボンドやグルーガンを使ってスクエアの台紙に組み合わせていきます。

子どもたちは一人一人テーマに向き合い、思考を形にする過程で、より深く社会課題を自分事として捉えることができるようになります。





元プロサッカー選手、安英学さんと考える「SDGs#17 サッカーで国境を越える」

小年度、青木小では、在日朝鮮人で元プロサッカー選手の安英学氏と「SDGs#17 サッカーで国境を越える」というレクチャーの中で、子どもたちとパートナーシップについて考えました。レクチャー後は、班ごとに102枚のトピックカードをSDGsの17項目に分けるグループワーク。2日目の図工の時間では、廃材を使って各々取り組みたい項目を正方形の台紙の上で表現します。

生命の歴史の中にいのちの奇跡を発見する「地球レクチャー」

横浜朝鮮初級学校、師岡小、みなとみらい本町小、西前小では、地球の誕生から現代まで生命の歴史を見つめ、地球と人類の存在意義について考える「地球レクチャー」を入口に、SDGsの17項目を廃材で表現する「SDGsquares」を実施。以下、プログラムに参加した児童の声。

「生きるとは：人々のつながりを表すもの」「生きるとは：色々な人から受け継がれたもの」「生きるってどんなことだろうという問いに最初は答えが見つからなかったけど、真剣に考えて自分なりの答えを出せた」

- R5年度「SDGsquares」実施校
- 横浜市立青木小学校 6年生
- 横浜朝鮮初級校 6年生
- 横浜市立師岡小学校 5年生
- 横浜市立みなとみらい本町小学校 6年生
- 横浜市立西前小学校 4年生

ヨコハマアートサイト

横浜市地域文化サポート事業・ヨコハマアートサイト2023 助成事業



EduArt 代表
望月実音子

マサチューセツ芸術大学卒業。NYにて10年間デザイナーとして活躍。帰国後2016年より横浜を拠点にアート活動開始。



EduArt 副代表
野村麻友

日本語教師としてタイ・台湾で働く。英語をツールとして自己表現力を磨くEduTalkの代表を務める。



特別講師/元プロサッカー選手
安 英学（アン・ヨンハ）

2002年にアルビレックス新潟でプロデビュー後、Jリーグで活躍。北朝鮮代表としてWカップに2度出場。Kリーグのチームにも在籍。日朝韓の国境をサッカーで越えてきた。



特別講師
Abdul Muhaimin Fusein

ガーナ大学卒業後、ガーナ政府機関に従事。横浜国立大学・大学院国際社会科で途上の失業問題を研究中。



特別講師
Akosua Otsubea Berkoh

ガーナ政府地域振興企画に従事後、来日。現在横浜国立大学・大学院国際社会科で公共政策を研究中。

EDU ART SDGsquares アートで考える17の持続可能な開発目標

子どもがつくる未来のカタチ展



「僕は、平和はどの世界にもあると思っていたが、それは大間違いでした」
TAMAGAWA TAKASHIMAYA
 開催場所：玉川高島屋本館6F催売場「やさしい暮らしマーケット」内
 開催日時：3月1日(日)～7日(土)11:00～18:00 入場無料
 予約：03(4581) お問い合わせ：info@sdgsquare.jp

2023年3月に、玉川高島屋主催のサステナブルイベントにて2022年度にSDGsquaresに参加した児童の作品展を開催しました。優秀賞70点には、1点1点子どもたちが作品に込めた思いがキャプションされており、たくさんの来場者が足を止めてじっくりと見入っている姿がありました。




玉川高島屋S・C

DNP

STARTS





6 CLEAN WATER AND SANITATION  SDGs #6 安全な水とトイレを世界中に「水のめぐりをアートしよう」

2023年、9月の初頭。緑区中山小学校の1年生を対象に水の循環をテーマにしたアートプログラムを実施しました。テントに全長13mの透明のシートを張りめぐらせ、1面には陸地に雨が降る様子、次はその雨が川になって流れる様子、次の面では都市や畑の生活用水を経て海と出会う様子、最後は海の水が蒸発してまた雨雲になる様子を表現。普段はなかなか体験することのないスケール感で仲間と一緒に水と一緒に地球を旅をし、水のめぐりを体感することができました。

参加した児童の声

うみがじょうはつするのがすごい。あめがくもからふるのがすごい。

みずのながれはとおいんだね。びっくりしました。

かわから、うみから、すいどうからきてるなんておもいませんでした。



平安小6年1組 未来のサステナブルシティをつくろう



問い1：みんながしあわせに暮らせる街ってどんな街？



問い2：そこに住んでいると、どんな気分になる街にしたい？



問い3：その街にあったらいいなと思うものは？



神奈川県全域・東京多摩地域の地域情報紙

ヨコハマニュース

ホーム 横浜 川崎 相模原・東京多摩 県央

鶴見区版 公開：2023年7月27日

🐦 📘 🗨️ 📺

廃材でアートなまちづくり

平安小6年1組の児童が
〔教育〕

平安小学校6年1組の児童がこのほど、廃材などを使って「未来のサステナブルシティ」を作る特別授業に取り組んだ。

これは、同クラスが今年度の総合的な学習の時間で「平安町のまちをアートで紹介する」取組みの一環。

当日は、アート教育団体「EduArt」（エデュアート）の望月実音子代表らと協力。児童たちは実際に平安町のまち探検をしながら地域の魅力を探り、今回は「未来の平安町がこんなまちになったらいいな」という想像で工作に挑戦した。

材料は、各家庭から持ち寄ったプラスチックやお菓子の箱、針金や糸など様々な廃材を使用。児童たちは、ロボットなど科学技術が発達したまちや、ごみ処理技術が発達したまち、魔法のまちなど、豊かな発想で思い思いのまちを創造。児童からは「グループで話し合いながら作ることができた」「自分たちが考えたまちが形になって楽しい」など満足気に語る声が聞かれた。

児童たちが制作した作品は、8月5日に同校校庭で開かれる地域の祭りで展示される予定で、2学期以降も取組みを進めていきたいとしている。同クラス担任の田部井佳恋教諭は「みんな熱心に取組んでくれた。SDGsや自分たちが暮らすまちの未来を考えるきっかけになれば」と話した。

廃材で制作する児童たち

菅田の丘小、総合学習 マスコット制作



神奈川県版 公開：2024年1月25日

菅田の丘小
マスコット制作進む
6年生が考案

菅田の丘小学校6年2組の児童たちが、学校のマスコットづくりに取り組んでいる。

同小は2021年4月、旧池上小と旧菅田小の再編統合によって開校。初年度は校章、2年目は校歌づくりに6年生が取り組んだ。「自分たちも学校のためにできることをしたい」と、今年度はマスコットキャラクター制作に挑戦した。

昨年6月に始動し、神奈川区のマスコット「かめ太郎」を題材にキャラクターのコンセプトやストーリーの重要性を学習。全校児童・教職員にアンケートを取り、各自でデザイン案を出した。その後は、アート教育団体「EduArt」の望月美音子さんのアドバイスを受けて、それぞれのアイデアを合わせてキャラクター像を練った。

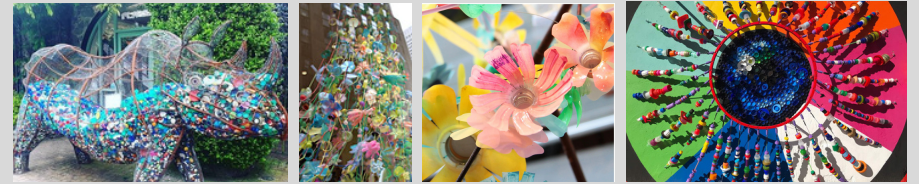
今回誕生するのは、サン・リップ・チェリーの花をモチーフにしたキャラクターたち。「花笑み・元気・自然・優しい」の同小を象徴する4つのキーワードがコンセプトになっている。1月17日には、望月さんに最終案を児童がプレゼン。キャラクターの活用方法等について話し合った。

細部を全校アンケートで決定し来月にはお披露目となる予定。参加した児童たちは、「サンのはっぱが可愛くて好き」「マスコットづくりを通して学校に愛着がわいた」と笑顔で話した。



神橋小、6年2組が学校のマスコットを制作するということで全3回に渡って菅田の丘小を訪問しました。1回目はマスコットの役割やデザインプロセスについてのお話し「菅田の丘のマスカラってどんな子?」「お役目やメッセージは?」「どこからきた何者? 特技はある?」質問を投げかけながらコンセプトを深めていきました。2回目は、クラスでたくさんでてきた案の一つの方向に絞るのに苦戦していた2組さんたちと、みんなのデザインのいいところを一緒に考えました。3回目は完成したマスコットに学校の人々から愛着を持ってもらうための作戦会議をしました。たくさんの試行錯誤を重ね、最後にクラスみんなで一致団結していく過程を経て成長した6年2組さんでした。

神橋小総合学習 廃材アートプロジェクト



なぜ廃材を使うか？何を伝えたいのか？

神橋小学校6年生のみなさんに、廃材で作るアートについてお話をさせていただきました。そもそもなぜ廃材を利用したアートをつくるのか？身近にはどんな廃材があるのか？材料、そして作品にはどんなメッセージが込められているのか？いろいろな形のアート作品を紹介し、表現の可能性を広げるお手伝いをさせていただきました。制作過程でチャレンジにぶつかった時や、展示方法についてもアドバイスをさせていただきました。クラスみんなで一つの作品をつくる過程で、それぞれの特技を生かして解決策を出し合う姿が印象的でした。



2023年12月、第8回ヨコハマトリエンナーレ連携プログラムを横浜インターナショナルスクールの10年生（高校1年生）を対象に実施しました。今回のトリエンナーレのテーマは、中国近代文学の父と呼ばれる作家、魯迅の「野草」という詩集。このテーマを選んだのは、今年度のアーティストスティックディレクターで中国出身のリウ・ディンとキャロル・インホワ・ルー。二人は、混乱の時代を生きる人々の姿を野草と重ねた魯迅の作品に、現在を生きる私たちは何を写すのか？と問いかけます。Day 1のレクチャーでは、魯迅の時代背景や、アーティストスティックディレクターのコンセプト文を読み、対話の中で思考を深める作業。Day 2は、制作。20cmの正方形にそれぞれ考えてたことを視覚的に表現。Day 3は、発表と振り返りを行いました。作品と文面からは驚くほど巧みな表現と深い考察が読み取ることができました。



In the face of the flames that threaten to consume our hopes and aspirations, we should embody the spirit of wild grass. This unassuming yet formidable force teaches us that we need to stand tall even amid the hardships. It reminds us that we do not need to be adorned with brilliance to withstand the storms of life.

私たちの希望と夢を焼き尽くそうとする炎の前で、野草の精神は具現化されます。生命の嵐に耐えるために必要なのは、輝きによって装飾されることではなく、控えめでも力強い野草の生命力であるからです。



the wild grass can be interpreted as the turbulence that drains the energy from external items.

野草は外部の要素からエネルギーを抜き取る乱れとして解釈できます。この作品の野草は、心臓から養分を糧に生きています。野草は外部の要素からエネルギーを取り入れ、例えば人々にとっては、成長し学ぶための人生の経験がそれに該当します。植物にとっては、これが肥料や水であり、これが彼らが成長し生き残るために役立っています。

Wild grass can symbolize the unconstrained, free life, but it can also symbolize a lonely unseen side of life. As leaves are pushed around by the wind and water, the beauty is the journey they go through. I want people to view my art and find peace, knowing that it's okay to be alone, and that there is a lot of strength in staying afloat.



野草は、拘束されていない、自由を象徴すると同時に、目には見えない生活の孤独な側面を象徴することもできます。美しさは葉っぱが風や水に押し流される旅路の中にあります。一人でいることは弱さではなく、浮かび続けること自体が強さであることを感じてほしいです。